

*ダンスパフォーマンス&展示プログラム【ブリッジシアター】

*現代芸術創造支援事業

Dance Laboratory

by アルカディ・ザイデス（イスラエル）+関西ダンサー
～13日間にわたる大阪滞在制作の記録～

関西ダンサーによる〈稽古場日誌〉

もしくは〈これまでを振り返って〉

○2/8 (月) 19:30 天王寺にて顔合わせ

18:00 過ぎまで仕事、をしながら今回のワークについて思いを巡らせる、見事な昼行灯っぷり。

イスラエル在住のアーティストとは過去何人かと交流は有るが、ワークは初めて。そもそもコミュニケーションできんのかよ、とそこから不安。+まなやんと垣尾さん以外のダンサーとは初のワーク。10年以上前、本格的に踊り出す以前から私が客席から眺めていた彼らから持って帰るものは多いだろうとの期待と、そもそも退院後初めてのワーク(ゴールデンファイナンスは除く、、、)。殆どリハビリ状態、使いもんになるんかと不安も多々。

が、どうせ明日からは突っ走るだけなんで、あまり気にせず天王寺中央口へ。劇場以外では初めて顔を合わせたメンバー、多少の眠たげな東欧系の顔立ちの彼とも対面。飲み屋に向かう間のやりとり、クローズでもなければ気も遣いすぎない彼のスタンスから気のいいヤツじゃんと好感を持つ。その後は終始熱燗を啜る姿から滞在中に旨い日本酒でも飲ませてやりたいとの童心めいた想起と、ワークに対するコンセプトを軽く話す。先日送られてきたメールと同様に、人間という器、その中に入っている様々な記憶や体験、それ以外の何か。それらに対してのアプローチからワークしていきたい、おそらくこのような内容だったかな。そして遠くトイメンの黒子さんを、どんな人なんだろうと微妙にチラチラしながらワイワイやってる内に早めの解散。腹持ちが悪く、グルメリテイでホッケと焼売を買い込み帰宅、そして恵比寿梅酒で追加の晩飯。気がついたらデスクでうたた寝、明日へ。

○2/9 (火) 18:00-21:00 西区区民センター

朝からやってるけれど、残念ながら 14:00 まで職場に缶詰。欲張りな性分か途中参加にやきもき、今頃みんなやってるんだろうなと、羨望の思いが募る。

その後 18:00 から合流。移動と長時間のワークの疲れか、アルカディは軽くお昼寝中。まだ知らぬ彼との、そして宮北さんとの初めてのワークににわかに緊張しながら身体をほぐす。そういえば本日は女性だらけの稽古場。彼女の話によると午前中のワークは随分面白かったらしい。そして、彼が目覚め簡単なトークの後ワーク開始。

自分のフレームを意識。内面的なものでなくただシェイプから発展させていく。

思いの外困難。形がどうなっているのか感覚ではなく視覚的状态を考える瞬間が流れを止める、しこりのようなものが溜まっていく。身体感覚に若干の鈍さを感じる。その後、一人ではなく周囲との影響、コンタクト、だったかな、利用して変化をしていく。ここ1,,年以上は男性オンリーの稽古続きだったので、根本的な肉感の違いにダイレクトな違和感と発見を見つける。

淡々とワークは続き、宿題を出され終了。自分を形作っている、5つの経験、記憶をもってこいとのこと。地面は濡れていたが降り止んだ様子。地下鉄のみんなには別れを告げて、帰路へ。場所も面子も初体験なので、帰り際からのちょっとした遣り取りや風景も新鮮、微細な刺激を受ける。そして途中ライブで、なすびと鯖を買って帰宅。作り置きのポテトサラダに一番搾りと越の初梅で晩飯。宿題を考え考えしている内に就寝。

○2/10 (水) 14:00-19:00 芸創

フレームワークの発展コンタクト

エルポーダンス

5つの事柄。広島、人がいること孤独、スピード、テクノロジー

垣尾さん、目が見えない

屢々首をロールさせるから意図が全く見えない真剣な眼差しと、一瞬深刻な表情、そしてにやけたツラ。僕らがプラクティスを繰り返している間の彼の表情は狙い澄ましたように、それでいてナチュラルに変化する。実に味のある男だ。

○2/11 (木) 12:00-21:00 エスペース

ソロ

デュオ

目隠し

垣尾さん、目が見えない→迷っている

晩飯は近所のとり貴族へ。定番の淡麗大と泡盛。

○2/12 (金) 15:00-18:00 芸創

目隠し、コンタクト。

目隠しせずコンタクト

いつもの自分とは変えていく。動きへの、それを生み出す何かへのアプローチ、すくい上げ方とでもいうのか。意識はしていても難しい。自分一人の稽古ではそうはいかない。

他者の目、言葉があることでちょっとずつ、でも確実に変化を起こしている。身体で何が起きているかをつかむ。

稽古後伊丹と悩んだ末京都へ。

○2/13 (土) 14:00-22:00

提出書類を記載していたら結局ギリギリ。

ヨドバシユニクロで稽古着、HEP で靴下のコースは流れる。ホンの 30-60 分手を止めたらいいことなのだが、それができない、そもそもしない。

ソロパート。重力の利用とクラシックの足裁きの修正。どこかに寄りかかろうとしているのだろう。困ったものだ。

目隠し、コンタクト

互いをイメージしてチェンジしあう。宮北さんと。殆どイメージできなかったけど、明らかに自分とは異なるものが出現する瞬間がある。質感的にはまずそうだが。

ワークの間全然みていないのかなあと終わって反省する。

安川さん、黒子さんに発見

池田扶美代、アラン・プラテル+ベンヤミン・ヴォルドンク「Nine Finger」の話題。昨晚アルカディ達は観に行ったらしい。感想は人それぞれ。

スリラーでしめ。

安川さんと帰宅。彼女のエネルギーに圧倒されつつ、いい話がたっぷりできた。

データを受け取った後、23:15 日本橋で焼き肉食べ放題。

○2/14 (日) 18:00-20:00 エスペース

先日送った書類の問い合わせコールで起床、細かい点は割愛するが多々反省。そして反省の甲斐か午前中から 16 日必着の書類作成続行、なんとか今日中、最悪明日中には発送したい。その後、ぼりちゃんからコール。14:00 からの稽古予定が変更、18:00 からに。一段落ついた書類から気持ちを切り替えてサイト作業へシフト。コーナンで封筒などを購入後稽古場へ。

おそらくここ数日のボクへのソロワークと同様に、個人個人への細かいアプローチを続けていたんだなと濃い空気を感じる。そしてアルカディは少々疲れ気味、のように感じる。こちらの思いこみもあるだろうけど、自国よりもやたら寒い中、ホテル暮らしのあっちゃこっちゃと移動して、その上終日稽古と気の休まる間もなかりうに。

本日はインプロの音楽とともに二人ずつでやる、僕は黒子さんと。音楽を取るも取らないのも自由。相手から影響を受けるが、やりすぎないように微細な変化に心がける。今回のワークは全体的に、僕にとっては気持ち悪くない程度の内面の原因と変化の汲み取りへのアプローチが多く、それでいて自分が持っていない、もしくは雑にやってきたことを丁寧に探っている。偶然にしろやってきたことと知らないことのバランスが良い。

一巡した後、今日は話そうと彼から提案。これまでの感想などを円座で交換しあう。

そういえば、今日はみんな揃うから呑みにでも、という昨晚の提案を思い出す。京橋までなら明日拾って行けばとバイクを京橋に預け、一品\280 の怪しい飲み屋へ。値段に見合ったクオリティ、むしろ\200 程度かなと微妙な面持ちだが、息抜きがてらのんびり過ごす。アルカディからは過去の制作作品、数ヶ月にわたる共同製作の話聴く。そして隣の宮北さんらとなんやかんやとワイワイやりながら、飲み会はオーバー。終電一本前で桃谷へ。小腹が空いてたので、ローソンのカルボナーラを購入、帰宅後、納豆と川越で晩飯。朝の続きで書類を作りながら気づけば机の上でうたた寝。

○2/15 (月) 12:00-14:00 芸創

昨日のバイクを京橋で拾って稽古場へ。

反省無くギリギリまで作業したため支払いによれず。結局明日行く羽目に。思いの外、雨の影響が出る。

安川さんの稽古を観ながらアップ。たまたま歩くということが topic されている。あと頭の上にバルーン。その後はアルカディと二人っきりでソロワーク。

グランプとフォーレンの違い。下半身でグランプする。

部位を細かく使う-シンプルな身体、表情との対比。

エクストリームははっきりと。各部位の重たさを細かく利用。

下半身でフォロー。フォーレンの際も上体を下半身の上に乗せてムーブ。これによって、よりエクストリームなフォーレンが可能。

多くはテクニカルな指摘だが、対比するようにそうではないポイントが際だってくる。

自分の稽古場だと手の内のテクニクに偏りがちな分、貴重なりハーサルだ。そもそもテクニカルなフィジカルワークは嫌煙しがちだし。

明日必着の書類。深夜 03:00 までに出せば翌日着だが、先週の反省を多少生かし念を入れ福島まで持参する。雨もやみジャパンで食料などを軽く買い込み、ギネスを探しにライフに寄るも見つからず、帰宅。請求書作成など細々した仕事を片付け、以前からの不義理の始末と宣伝もかね知人と晩飯。マグロの刺身につくね汁と牡蠣の酒蒸し風炒め物、+キリンラガーに持ち込みの\490 ワイン(値段の割にはましだった)。

今回のワーク内容からイスラエルという単語へ話題はシフト。彼女はイスラエルという名前は漠然としか認識していない。取り敢えず危ない国(なぜ危ないかは認識なし)らしい。その他ガザ地区、パレスチナ、ウイグル自治区、旧ソビエトすらも全く知らない、単語すら知らない。細かい流れは省くが、知らないことではなく知ろうとしないことが topic、でも拒絶される。多数派=あたりまえではけしてないがそれも受け入れられず。この国は大丈夫か、大丈夫でないからどうすると毎度のことだが大きく考えさせられる。何様じゃ思うけれど、言い続けるやり続けるしかないのだなと多少鬱になり就寝。

○2/16 (火) 15:00-16:00B1(映像撮影) 17:30-20:30 芸創

差し迫った時刻に起床。案の定支払いには寄れず。

仕事場でも隙を見て昨日の質問(イスラエル、パレスチナ等の認識の件)をする。周りからすれば鬱陶しい話だが、周囲もなれたものである。命題に関してある程度の人数は個人差はあれども認識している。それでも単語すら知らない人は少なくはなく、昨日ほど憤りは感じないが、大きく考えさせられる。

以上のくだりやアクシデントもあり、B1 では仕事から自分の殆どが切り替わらず。展示、もしかしたらパフォーマンスに使用する映像の撮影。自分以外のみんなは既に現地入り、すでに半数が撮影終了、稽古場とはまた違った柔らかな空気が流れている、たまたま女性だらけってのもあるだろうけど。そんな現場の空気感に対しても、自分が暖まっていない、切り替わっていないのを肌で感じるが、このずれは修正できず。撮影中、全く頭も想像も働かない、安易な反射、目も当てられない。

内山大 5/5

普段ならば、行きたいと願う場所があることや影響受けてることあるじゃん、自分にとっての重要な topic は忘れることはない、はずだ。にもかかわらず、あの瞬間は何も出てこない。思い出すことも出来ていない。困った状態だ。

その後、16:00 過ぎにみんなで森小路へ、昼食を 14:00 過ぎに一度取っていたにも関わらず、欲望に負け芸創近くで 2 度目の食事。中井+ラーメンセット\700-。ぺろりと完食。意外と稽古場でももたれておらず。

本日のワークはこれまでとは違うよ、と彼。確かにアプローチ、身体への影響は異なる。口を使うので身体的に少々しんどい。術後の引きつりもあるのか顔の動きも鈍い。一種のリハビリ感覚。

垣尾さんと二人で touch me。大まじめな分、えもいえないダメージを喰らう。

稽古後、東京からの知人に突然呼び出される。もっと早くに連絡して来いよ、、、2300 過ぎでこの店も看板前、しかたなく貴族へ。こちらもちラシを渡してアナウンス程度の宣伝をする。この国のダンス周りでのイスラエルの位置づけについて話しつつ、「アルカディ=ザイデス→FF のボスのよう名前、強そうだな」と彼の軽いコメントにところが和む。

○2/17 (水) off

たまった仕事+家事を片付ける。やっそこさ支払いも済む。

夕方から心齋橋で衣装探し→日本橋で観劇コースだったが、メールに電話、データ修正と気がついたら 22 時前。いつものことだがままならない。

明日の展望

ここ数日の振り返り

昨日の件、自分にとって踊るとは？

○2/18 (木) 15:00-21:00 芸創

せっかくだから場を観ようと、稽古場の前に B1 に。道がすいてる時間ならうちから 10 分程度、意外と近い。今日から展示開始。映像の中の黒子さんが可愛い、ちょっとおもしろい。

15:00-21:00 芸創

15:00-18:00 まで、土曜日以来、宮北さんとのパート稽古。

僕のパートはエクスプロージョン-クリーン・why の差異のようなもの、彼女のパートから質感は違えど差異の感覚には近しさを感じる。

Have a idea!! らしい。

○8日

アルカディ到着。皆で居酒屋。アルカディはベジタリアンとのこと。身体を容器として捉え中に入れる質によってどういった動きになるか変わるかを題目にといったことを少し話しあとは自己紹介雑談、アルカディの踊る事のきっかけはフォークダンスだそう。

○9日

朝11時壁に並び体のフォームをじっくりじっくり、皆でひとつの生命体のように、基本的に形を自分で作らず、身体を確認することで現れてくる形動きを眺めるように。帰り際皆に宿題が。自分を自分たらしめている5つの要素、身体的特徴でも思い出、好きなものでもなんでもいいからそれを考えてきてと。

○10日

壁前にたち身体のフォームを確認することを基本にひとつ宿題の質を加える。その要素を表現するのではなく、それを念頭に置き身体に溶かすように自然に現れる気持ちにただ身をまかすように、難しいんです。でも気楽にするのがよいようです、ある意味、自由もしくは当たり前を指すようなワークだから。ちなみに私の5つの要素のひとつは「近眼」

○11日

タオルで目隠しをして自分の要素を念頭に置きソロで動く。タオルは皆でまわし使い、だんだんと汗にまみれるタオルが皆の気合いを私の気合いをいれる、強張った身体を緩める。

音楽はなし、周りの音の重要性が普段とは違います。ひとり30分から40分位そうやって旅するように動いて、壁際には皆がそれをじっと見つめ何かにぶつかったりしないよう守ってくれてるので安心して、旅人です。

マシンと人間のduoをするとアルカディ。

何のことだと以前作ったというその作品をビデオで見る。面白い。

がやると大変。

機械の役と人間の役を交互にするんですが、例えば人間が機械の手を上下に動かす、機械はその動きが固定されその動きを繰り返す、その繰り返しの動きに人間はエモーションを持って係わる、例えばその機械の上下する手の動きに頭を差し出して頭をなでなでされるなど、そのなでなでされた感情を感じたあと、なでなでされたその動きが身体をゆらしたならば、突然今度はなでなでされる人間が機械になりそのゆれる動きを機械として繰り返す、以下係わり方エモーションを変えながら繰り返す。筋肉痛になりました。

○12日

踊る事で筋肉痛になり踊る事で筋肉痛が治る日々。

機械と人間の、エモーションとフィジカルエモーションを意識してのduoを延々と。

最後は輪になって皆が皆の緩やかな模倣しながらのフォークダンスのような、あるいはどこかの原住民の祝祭、あるいは猿による悲しみの逆噴射劇場、そんな感じな事をしました。非常に楽しい。健康にもなると思う。

確かなのは稽古終わりには皆の熱気でガラスは全て曇っていたということ。

○13日

以前した目隠ししながらの動きをduoで。

自分とは違う他人になって踊るなど。踊るといふか動くといふか動かされるといふか。

この数日の作業は多分実はそんなに難しい非日常なことではないのだけれど、改めてこうピックアップすると、とても非日常な事で、普段の自分の枠が見えてきたり。踊りに係わるひとだけでなく誰でもが必要な事、人間を人間たらしめているものの確認のように思う。

○14日

目隠ししてduo、みんなでしばし話し合い。

居酒屋へ。肉っているなものに入ってるねーと。

○15日

マシン人間duoダンスの練習。目隠しをして即興で動いた自らの動きをビデオをみて振りおこした動きを同時にふたりで等。

○16日

展示で流す為そこでひとりひとりインタビューの撮影、その後、中華料理でご飯休憩、アルカディは勿論肉なし野菜炒め定食。何かに捧げてる姿は美しい。

稽古場に戻り、少しテクニク的な練習をし（体を緩めて自然に動くテクニク）、次にオイリュトミー的な、何語でもない、いわゆるめちゃくちゃ語のようなものを激しく声にだし歩きながら15分ずっと、5分サイレンス、そのめちゃくちゃ語を声に出さず体のあちこちで延々と。続いてタッチ、ミー、さわって、とふたりずつ向かい合わせの人にお互い呼びかけ、それが真実味があるなら一歩前にでて相手に近づく、など、意味ある言葉を発する時の体の状態の変化をみたり。

どこの国でもコンテンポラリーなダンサー達はこういった作業から新しい古典、永遠の古典、人間を、探っているのです。

人間をみるのは当たり前面白いと思う日々。

17日

オフ！

○2月10日(水)ワーク2日目

食い入るように身体を見つめる。言葉のやりとりでは感じられない、その人の本質の身体が少しずつ浮かび上がってくる。それが面白い。自分の身体も食い入るように感じてみたい。

○2月11日(木)ワーク3日目

踊らないで踊る。

そんな動きを探し求める。

自分の意識していない(出来ていない)、まだ見ぬ記憶を探る。

形がなく、これだと思ったらスルリと抜けていく。

たくさんのが、硬く私にはこびりついている。これが私自身だと思っても、案外それは本質の私ではなく自分を守るためのよろいなのもかもしれない。

このよろい、なかなか手強い。

めくれたと思ったら、重ねてしまってる時もある。何が正しいかそんなのはわからない。

ただ、それを想像し創造すること。そのための時間と身体がステキなんだと思う。

○2月12(金)ワーク4日目

空間と他者と自分との関係。

自分を相手にゆだねて、色々な刺激や情報を感じて、相手との関係に驚きを起こす。

よく考えてみると私が日頃考えてる事。

なのに何故か、なかなか思うようには行かない。

身体は自分の意のままにはならない。

当たり前ですね。

今日も食い入るようにメンバーの身体を見た。

その視線の向こうのアルカディの様子は何とも言えない。何かを追ってる鋭い眼差しだったり子供のような表情だったり...。これはとても楽しく私にとって贅沢な時。

○2月13日(土)ワーク5日目

初めてメンバー全員がそろう。なんだか嬉しい。

昨日と同じく、宮北さんと目隠しダンス。ちょっと違うトンネルに入ってしまったかもしれない。

でもそれはそれ。なるようにしかならない。何かが見つかる瞬間をいろんな道をたどって、結果違う所に行ったとしても、そのプロセスが大事。特に今回はそうだと思う。

黒子沙菜恵 2/2

自分でない他者の身体を想像する。私はどうあっても私でしかないが、私の知らない感覚に出会える。私の世界が広がる。これはやけに楽しい！
今日も引き続き、食い入るようにメンバーの身体を見つめる。

○2月14日(日)ワーク6日目

話をする。

方向は定かではないけど、アルカディの见たいものは明確なような気がする。それぞれが初めて出会う世界。それを見たい、感じてみたい、そういう欲求はあるのに、まだ感覚として身体がわかっていない自分に少し苛立つ(苦笑)。

ワークも後半になろうとしている。

○2月15日(月)

別リハのためワークは休む

な・何と腰痛再発...

トホホ。

○2月16日(火)

撮影インタビュー、そしてリハーサル。

今日は腰痛のため、コルセットをつけて参加。

腰痛なのに、気持ちは何故か、えいっ！って感じで前向き。今日はちょっと不思議だあ。

声・顔の緊張を取る。

精神が目覚めるようだ。普段もこんな感覚でいてみたい。そしたらもっと面白くなるのに。

touch me さわって

あなたの言葉、私の言葉、私の身体、あなたの身体。一步近づく、だんだん近づく。無防備になりたいと思いつつ。

○2月17日(水)

アルカディは東京。

リハはオフ。

腰を休めるために時間を使う。出来るだけ調子をもどしたい〜！

福岡まな実

- ・ honestly
- ・ new way we don't know
- ・ tunnel など...

アルカディは単純な言葉を繰り返し使った。余計な感情を持たないからシンプル且つどンドン深く広く細くなりえて、裸一貫にならないと通れない事がわかる。私達が着込んでいた沢山のモノを脱いで身体から何かが萌えてくるのを待つ辛抱強さにとても信頼を覚える。

宮北裕美 1/3

アルカディとのこれまでを振り返って

最初にイスラエル在住の振付家という話を聞いてとても複雑な気分になりました。中東地域のことは、日本に住んでいるとよく分からなくて、イスラエルというと、大規模なガザ空爆とかを思い出し、なんとなく自分はアラブに同情しているのかな、でもよく分からない、本当によく分からないと思って混乱しました。

このプロジェクトで、イスラエル在住の振付家と一緒に仕事をする機会を与えられたのなら、政治的な部分に触れたいけれど、同時に、一切触れたくなくて、自分はどっちなのかよく分からない感じでした。

アルカディさんは面識がなかったけれど、面白い作品を創るということを知っていて、きっとこの機会に、私が今までよく分からずにいた、別の地域のリアリティに触れることができるだろうし、若手のアーティストなら、きっとラディカルで、何らかの意志や哲学を持っているはずだから、私はその情報を自分に取り込みたいと思いました。

プロジェクトは2月10日（火）から始まりました。事前に器としての身体ということテーマにして進めてゆきたいということを知っていて、体の外枠を観察して、即興で動くことなどに取り組みました。

アルカディさんは、人間らしさや、ダンスを超えてその人らしさが見えるようなものを求めているようで

毎日色々な方法で、自分の意志ではなく、必然的にやってくる動きをどうやって掴むか、ということは何度も何度も挑戦してきました。

私は何年も佇まいやコンセプトを重視してダンスに向き合ってきたので
最初の数日は、ダイナミックな動きに対応するために体が準備をしているなということを感じました。
毎日毎日、自分の内側や身体の繊細な声に意識を集中し、
不要なものをそぎ落として、私という個人が浮かび上がるための動き方を探る日々。
アルカディさんは、それぞれのダンサーを細かく観察して、
その人にあった方法で、時間をかけて丹念にアプローチしてくれました。

アルカディさんのワークで面白かったのは、
2日目に、あなたを形作るものごとやできごとを教えてくださいと言われてことや、
目隠しをして即興をすることや、他人になって踊ってみるということなどでした。
私は、私を形成する要素として、

「沖縄」「アメリカ」「禅」「靱帯切断している左足首」「横断」を思いつきました。
最初に「沖縄」を思って踊ったときなどは、とても良い踊りができたけど、少し感情移入し過ぎてしましました。

「禅」や「横断」ということになると、抽象的すぎてひどい踊りになってしまい、その後
新しい方法などをアルカディさんがどんどん試してゆき、数日は迷いの日々を過ごすことになったの
でした。

気持ちよい、いつもの方法や癖に陥りそうになったり
そのことを、言われないと気が付かない程、身体意識が薄れていることに気が付かされ、
私は身体表現者として何をしてきたのだろうと情けなくなり、最初は戸惑ったのですが
5日目位から、だんだんアルカディさんの言っていることがしっくり来るようになってきたのでした。
目隠しをして自分の身体の発することだけに耳を傾けたり、目隠しをした状態で二人組で踊ったら
身体だけじゃなくて、考え方の本質的な部分まで、すごく研ぎ澄まされた感覚が生まれてきて

「禅」の思想のことをもう一度自分に問いかけた時に、
自然の摂理や、重力、引力、呼吸、上下、左右、方向、速度、骨格、など
すべてがあるがままの状態というのはどういうことだろうか、
自分の意志じゃなくて、自分の身体がそれに沿うたり、逆に反したりしている状態はどのような状態
にあるのだろうか

というような、具体的な問いかけを持つ事ができて、
以前の自分とはほとんど変わってないけれど、一枚はがれた自分になったような気がしてとても嬉し
かったです。

宮北裕美 3/3

このプロジェクトでは、アルカディさんの存在だけではなく、一緒に参加した安川晶子さん、黒子さなえさん、垣尾優さん、福岡まな実さん、内山元さんの存在もとても大きかったです。みんな本当に真摯にダンスに向き合うダンス馬鹿で、毎日とてもハードなスケジュールでしたが、とても幸せでした。このプロジェクトは繊細なアプローチだったため、信頼関係無しに成立しなかったと思います。

アルカディさんは前作でパレスチナ人との共同制作を行いとても困難なプロセスを経たという話をしてくれました。私はアルカディさんに国のことや情勢のことについて直接問いかけていません。国籍や文化などの違いを指摘して理解し合うことよりも、そのようなことを超えても共有できるものが必ずある、ということを感じたいし、私たちは実体験を持ってそのことを言えるかなと、ちょっと思います。分からない部分は今も正直あまり変わらないのですが、実際に一緒に日々を過ごした人の顔が思い浮かぶようになると、将来が変わるような気がします。

安川晶子

この度、私とは全く異なる高い次元で思考、活動されている人と出会い、ワークの回を重ねる度に驚かされ、まさかのサプライズ2週間となった。

鋭い観察力とじっくりと時間をかけてダンサーから出てくる何かを待つエネルギーと愛。そのスケールの大きさと深さに感動するとともに、自分の普段の行いを恥ずかしく思う、ああ、ちっちゃい、ちゃっちい私、わらける。

ま、こんな私ではあるがしょうがないので、あきらめずにアルカディさんから頂いた吸収したい事柄を自分の中で繰り返しトライし続ける気、満々です。この、課題に向かって行く感じ、好きなんです、私。こんな幸せを与えて下さって、本当にありがとうございます、アルカディさん。